（1）　明治20年創刊　第39665号（第3種郵便物認可）　THE JOMO SHINBUN　2005年（平成17年）9月30日（金曜日）（日刊）

耐震性 半数が疑問

災害時の指定避難所1691棟

県「早急に診断、改修を」

〝合格〟883棟のみ

県内の各市町村が指定している災害時の避難所の建物1691棟のうち、半数近い八百八棟は耐震性の確証が得られていないことが二十九日、県の調査で分かった。新潟県中越地震では被災者が余震による倒壊を恐れ、老朽化の進んだ避難所の使用を拒否したケースもあり、対策は急務となっている。厳しい財政状況を踏まえつつ、県は各市町村に早期の耐震化や耐震診断の実施を促す。

県消防防災課による。塩沢村28・6%。十一市と、避難所の全建物のうち耐震性が認められたのは高崎市49・5%は建築基準法（一九八一年改正）で建設された七百八十四棟と、旧耐震基準ながら既に耐震措置の図られた九十九棟で計八百八十三棟、全体の耐震率は52・2%となっている。

残る八百八棟のうち、改修中は八棟のみで、百六十八棟は未改修のまま使用されている。六百三十二棟については耐震診断すら行われていないのが実態という。

市町村別にみると、耐震率が最も低かったのは南牧村の10・0%で、次に妙義町・草津町16・7%、片品村22・2%、代々木村28・6%。

昨年震災に見舞われ、雪崩発生した地震などを経た新潟県では、老朽化した内の件数や避難所建物の教訓に、全国的に公共施設を中心とした「耐震診断」、被災者が車中泊を選ぶケースもあった。

同課は「万が一、倒早急に避難所の耐震診断を実施し、必要に応じて改修することが望まれる」と強調している。

今回の調査は、国土交通省が依頼した避難所安全点検の一環。土砂

下帯姿で豊作願う

月夜野町下津の着雪八幡宮で「ヤッサ祭り」

月夜野町下津の着雪八幡宮で二十九日夜、例年のヤッサ祭り。が開かれ、下帯姿の男性十八人がヤッサ、モッサ、シンジュウロー」という掛け声とともに社殿の住へ登り、餅を打ち撒いて豊作と無病息災を願った。写真。

祭りは水害に悩まされて来た地区で、住民が脇方しの汗水が流れたという。故事が由来とされ、戦国時代から続いている。

旧製糸場の110棟寄贈

片倉工業 富岡市に覚書など渡す

富岡市が一日から旧官営富岡製糸場（現片倉工業）を暫定管理で建造物などを同市へ寄贈する覚書を交わすことを明らかにした。

富岡市は、